

人口減少が進む中で考えられる未来予測

平成30年12月3日

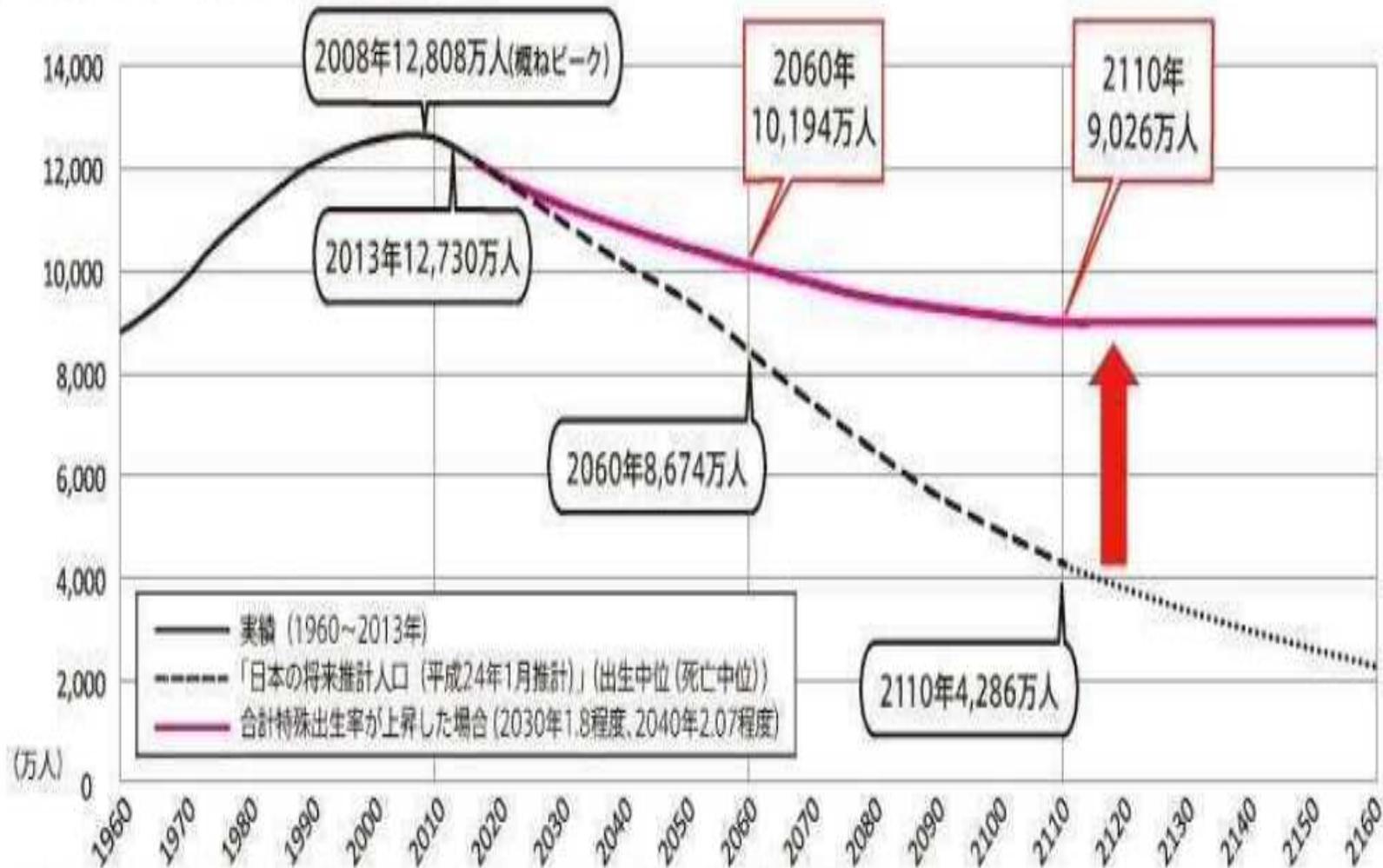
第1回三木市総合計画策定審議会資料

総合政策部企画政策課

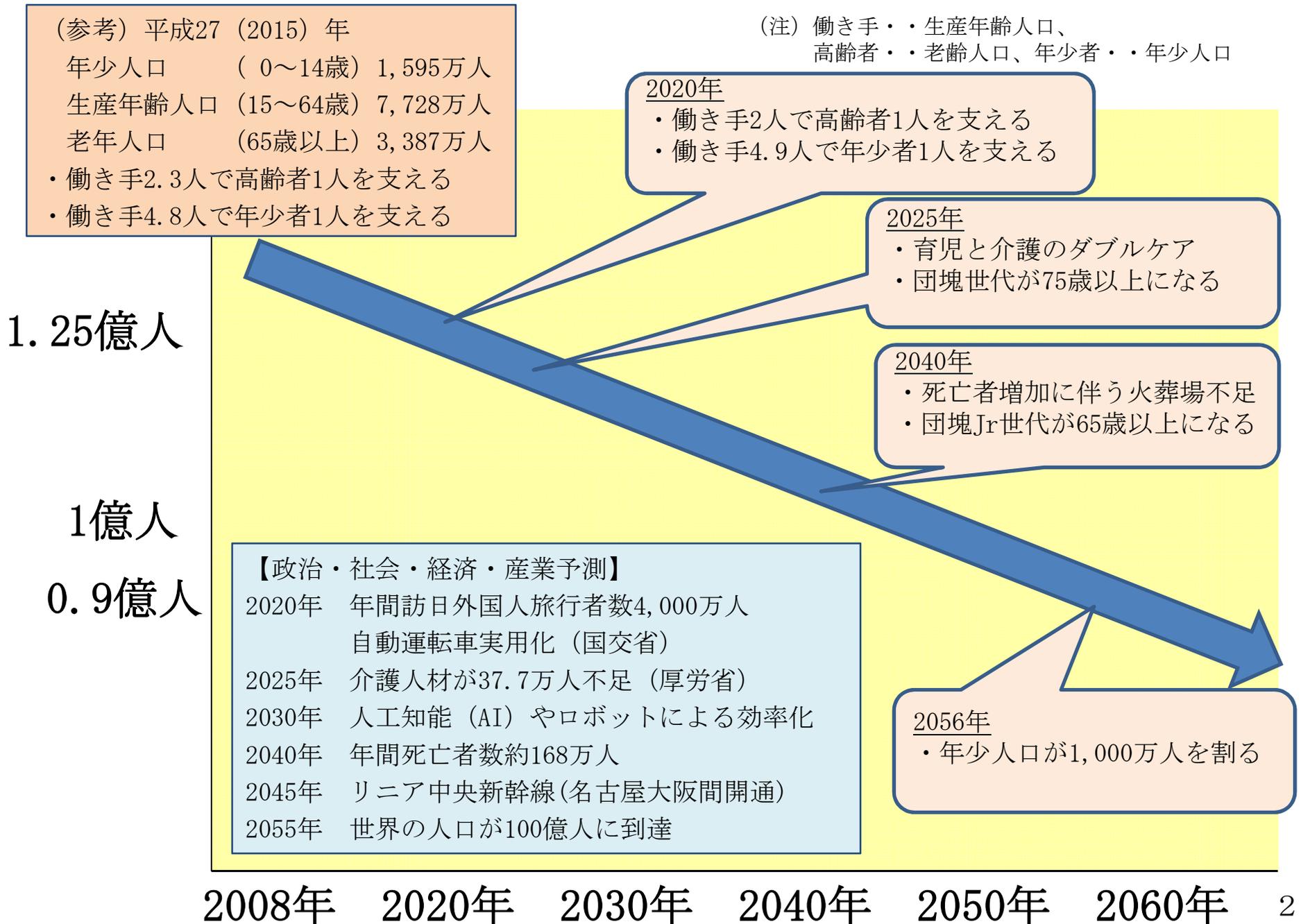
1 人口減少社会の到来（日本）

日本の人口は平成20(2008)年から減少局面に入り、今後加速度的に進むと見込まれています。その推計人口は、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という）の発表では、日本の総人口がこのまま推移すると、ピーク時の1億2,808万人から、平成72(2060)年には8,674万人にまで落ち込むと推計しています。

我が国の人口の推移と長期的な見通し



2 人口減少が進む中で考えられる未来予測（イメージ）



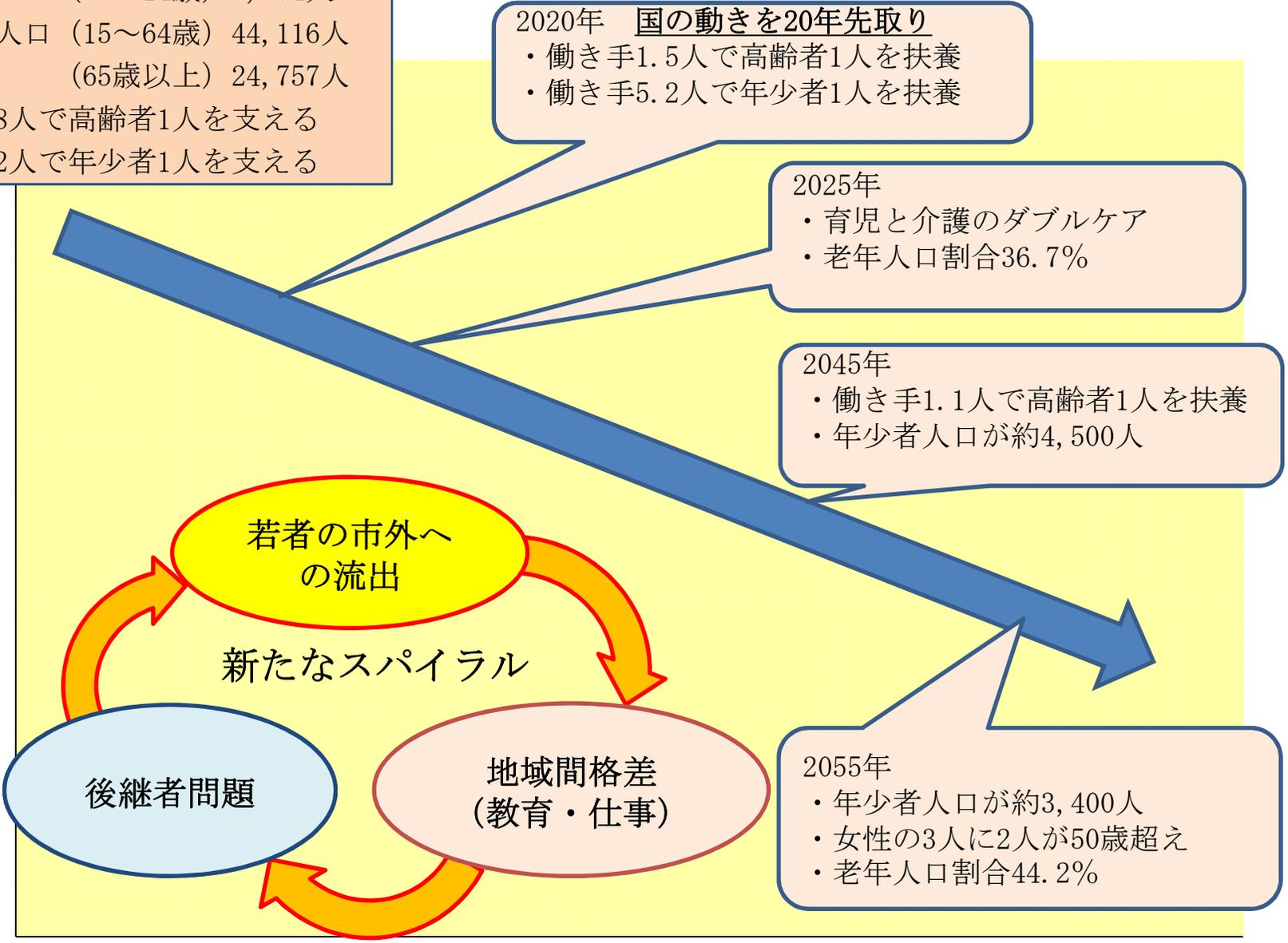
人口減少が進む中で考えられる未来予測（三木市イメージ）

(参考) 平成27 (2015) 年 79,725人
 年少人口 (0~14歳) 8,934人
 生産年齢人口 (15~64歳) 44,116人
 老年人口 (65歳以上) 24,757人
 ・働き手1.8人で高齢者1人を支える
 ・働き手5.2人で年少者1人を支える

8万人

6万人

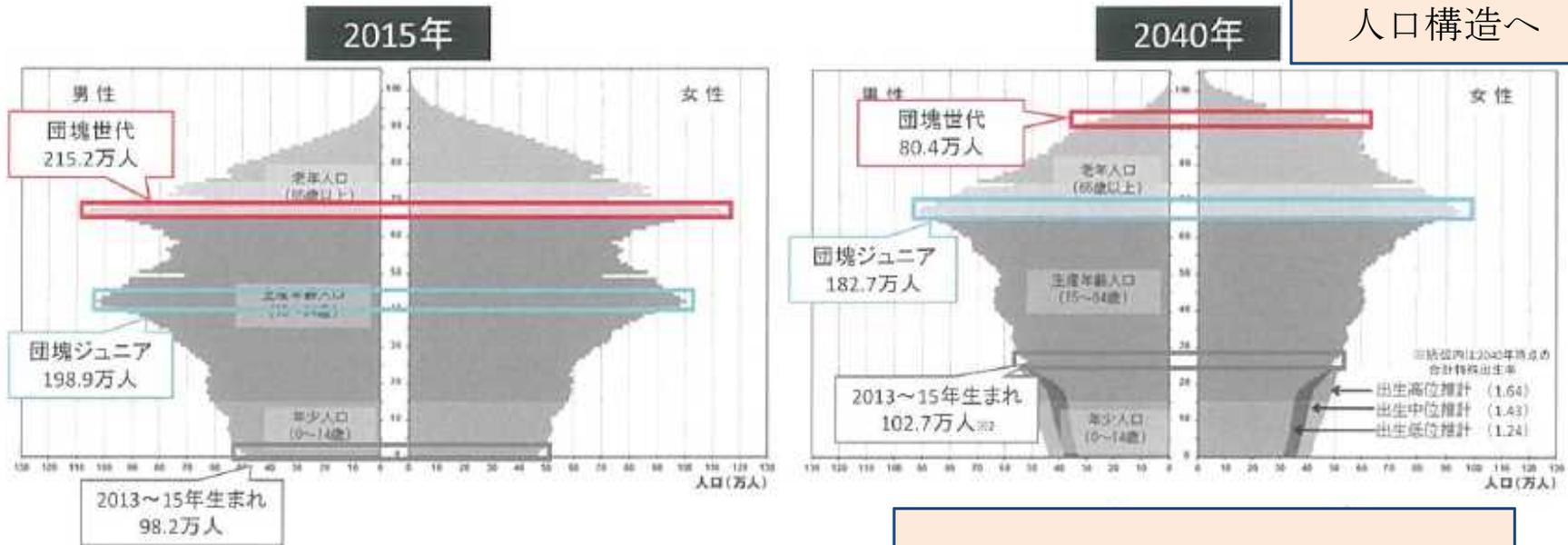
4万人



2015年 2020年 2030年 2040年 2050年 2060年

2040年に向けた人口の動向について

棺桶型の人口構造へ



	出生数	2015年 ^{※1}	2040年 ^{※1}
団塊の世代 1947~49年生まれ	267.9万人 ~269.7万人	215.2万人 66~68歳	80.4万人 91~93歳
団塊ジュニア 1971~74年生まれ	200.1万人 ~209.2万人	198.9万人 41~44歳	182.7万人 66~69歳
【参考】 2013~15年生まれ	100.4万人 ~103.0万人	98.2万人 0~2歳	102.7万人 ^{※2} 25~27歳

人口構造のいびつ化に伴い
需要と供給のバランスが崩れる。

※1 2015年、2040年の各世代人口は各年齢の平均を記載。

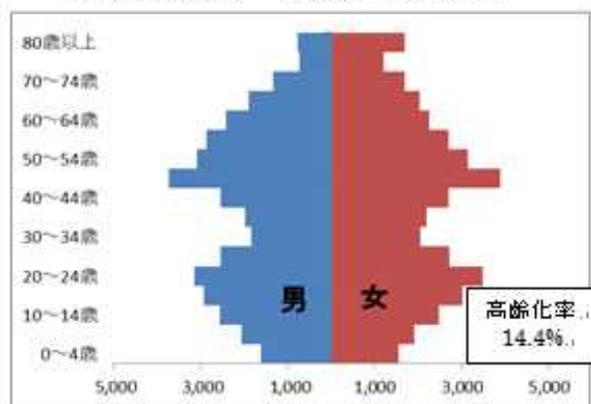
※2 日本の将来推計人口は、国籍に関わらず日本に在在する総人口を推計の対象としており、国際人口移動率(数)を仮定して推計を実施している。

出典 出生数は厚生労働省「人口動態統計調査」から作成。
2015年、2040年人口は「日本の将来推計人口(平成29年推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)から作成

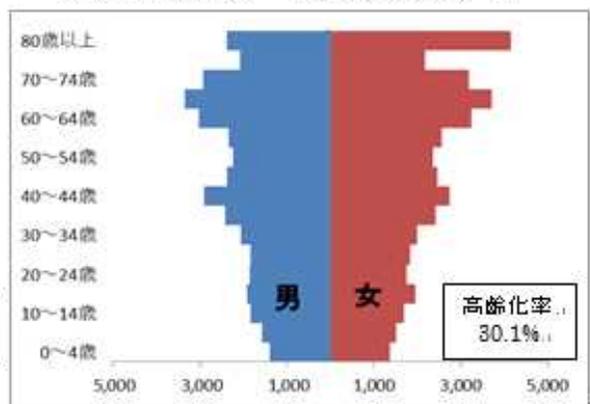
三木市の人口ピラミッド推計値

三木市の人口ピラミッドは、国よりも20年進んだ状況になっています。
 加えて、人口減少のスピードに伴い、非常にスリムな人口構造になると推測されています。

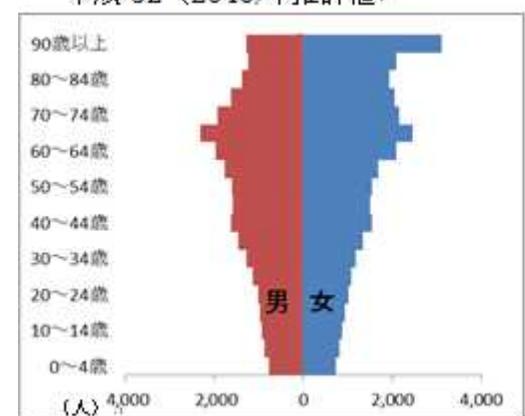
平成9(1997)年人口ピラミッド



平成27(2015)年人口ピラミッド



平成52(2040)年推計値



年齢区分別人口比率の比較

	区分	平成9(1997)年	平成27(2015)年
男	年少人口(0~14歳)	16.4%	▲3.9%
	生産年齢人口(15~64歳)	71.2%	▲11.6%
	老年人口(65歳以上)	12.4%	+15.5%
女	年少人口(0~14歳)	14.6%	▲3.5%
	生産年齢人口(15~64歳)	69.1%	▲12.4%
	老年人口(65歳以上)	16.3%	+15.9%